

はるか

ゆたかな暮らしの
情報紙

令和4年 秋号

「ありがとう」を花せるお葬式
東京 千葉 埼玉 神奈川

孝行舎 株式会社 孝行舎

—お見積り無料 ご相談随時受付—

本社：東京都足立区中央本町4-17-2
葬儀サロン：東京都足立区中央本町1-19-2

0120-81-5548

TEL 03-3887-9090(代) FAX 03-3887-9091

孝行舎 検索

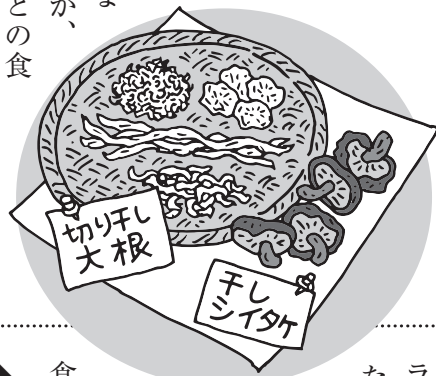
深夜・早朝でもご遠慮なくお電話下さい
24時間・365日寝台車がお迎えにまいります

- すこやか「食」の旅——— 乾物
- ご存じですか?——— 「宮沢賢治」
- 伝統のモノ——— 将棋
- 花ものがたり——— ホトトギス
- 生活の中の仏教語——— 退治
- 仏事と葬儀の知識——— 合掌の由来

すこやか
「食」の旅

乾物

日本は、乾物王国。といつても決して過言ではありません。世界にはさまざまな「乾物」がありますが、海の幸・山の幸、季節ごとの食材に恵まれた日本ほど、その種類が豊富な国はほかにないのではないのでしょうか。



◆先人の知恵

どうすれば食材を腐らせずに長く保存することができるか——古来、人間はそのことに知恵を絞ってきました。そうして身につけた「天日干し」して乾燥させる「保存法は、日本人の食文化として途絶えることなく今日まで受け継がれています。しかし、食品の冷蔵・冷凍技術が進歩し、物流システムも広範囲に行き渡った現在、日常的に「乾物」を食べているという家庭は、残念ながら、ひと昔前に比べると格段に少なくなっているといえます。

◆お日さまの恵み

「乾物」が優れているのは、長期保存が可能であることだけではありません。食材を太陽光に当てて干すことによって、含まれる成分も変化して天然のうま味や香りが生まれ、ビタミンやミネラルなど健康に良い成分も新たに加わって、まったく違った食材に変身するのです。

◆未来に伝えたい「省エネ」食材

「乾物」には、ほかにまだまだ良い面があります。それは、これからの時代に欠かせない「省エネ」食材であるということです。

人工的に乾燥させた商品も出回っていますが、「乾物」は本来、太陽エネルギーでつくられるもの。また、常温で保存ができ、もどす場合も水につけるだけです。

いまは、電子レンジでチンすれば、おいしいものが手間いらずに食べられる時代です。しかし、未来に目を向ければ、天然素材で低カロリー、噛み応えがあつて満腹感もあり、食べ過ぎることもなく食べものを無駄にすることもない「乾物」は、私たちにとってより大切な食材になるのではないのでしょうか。

かしこい利用法

干しシイタケの軸

軸は捨てずに醤油に漬ける
ジャムなどの空きビンに乾いたままの軸をいくつか入れ、そこにひたひたになるほど醤油を加え、冷蔵庫で2、3日寝かすと、シイタケの「うま味」がプラスされたおいしい出汁醤油、ができます。



私たちは、歴史上の人物など一般によく知られている人について「きつとこういう人だったのだ」などと、思い込んでしまっている場合があります。しかし、ときには「こんな意外な面もあったのか」と驚いたり、「私たちとあまり変わらないじゃないか」と、その暮らしぶりに親しみを覚えたりすることもあります。

* * *

今回は、宮沢賢治についての話題をご紹介します。

ご存じですか？

宮沢賢治

『雨ニモマケズ』

明治29年（1896）、岩手県花巻市（現）に生まれ、昭和8年（1933）に37歳の若さで世を去った宮沢賢治。

雨ニモマケズ 風ニモマケズ
雪ニモ夏ノ暑サニモ マケズ
丈夫ナカラダヲ モチ（以下略）

亡くなる2年前の昭和6年に病床で書かれたといわれるこの詩（「詩」として読んでいいのかどうかも研究者の間で意見が分かれています）は、表紙が擦り切れた黒革の手帳に、11月3日の日付入りで書きつけられていたもので、賢治没後、遺品のトランクのポケットから発見されました。

宮沢賢治といえば、誰もが「雨ニモマケズ……」と誦（そら）むるほどですが、近年は翻訳されて、賢治ファンは世界にも広がっています。

■異能の人・賢治

異能とは、人より優れた才能や一風変わった独特の能力を意味します。化学、音楽、美術、植物、天文学などへのはかり知れない関心と好奇心を、さまざまな形で表現しようとした賢治は、天才であることはもちろんながら、まさに「異能の人」ともい

えそうです。

賢治の通夜の席で挨拶に立った父・政次郎は「私は、この天馬を地上に繋ぎとめておくために生まれてきたようなもの」と、この上ない才能に恵まれて天上に駆け上ろうとする天馬に息子をたとえ、父親としての心境を語っています。

■セロ弾きの賢治

よく知られる賢治の童話に『セロ弾きのゴシユ』があります。主人公のゴシユは、町の活動写真館の楽隊のチェロ（セロ）弾きですが、賢治も実際にチェロを購入し、わざわざ上京して速成レッスンまで受け、オルガンも習っていたようです。

また、ベーターベンを愛し、クラシックレコードのコレクターだった賢治は、英語版カタログを見ては次々に注文し、その数のあまりの多さに東京のレコード会社もびっくりし、取り次ぎ役をしていた地元花巻のレコード店に、感謝状が贈られたという話も残されています。

因みに、賢治は100枚ほどのレコードを集めていたようで、東北の田舎に住む当時のコレクターとしては、内容・数ともに立派なものであったといえます。

■画家の賢治

賢治の慧眼（物事の本質を感じとる鋭い眼力）は、幅広い分野に発揮されました。たとえば、国内での評価が低かった浮世絵のすばらしさを見抜き、後の散逸を防ぐために、1000枚もの浮世絵を蒐集していたといわれます。当時はまだ安く購入できたとはいえ、賢治の目利きが解る日本人はどれだけいたでしょう。

また、浮世絵だけではなく絵（とくに西洋絵画）に対する関心も高く、賢治自身も絵筆をとっています。いまま残る水彩画を観ても、時代を先取りするような構図や色づかいの斬新さに驚かされるばかりです。そして意外なことに、ファッションにも興味があり、賢治独自のセンスでおしゃれも楽しんでいましたようです。

■賢治の理想郷イーハトーブ

賢治は、理想郷イーハトーブについて、どこかに「あるもの」ではなく、自分たちで「創り出すもの」だと考えていたといわれます。

賢治の尽きない好奇心や、発想の泉から湧き出たアイディアも、そんな理想郷の創造に向けたものであったのかもしれない。

伝 統 の モ ノ

人気再来の 知的遊戯

将棋



図書館の児童図書コーナーをのぞいてみると、マンガや絵本をはじめ、将棋をテーマにした本の多いことに驚かされます。2016年に史上最年少でプロ入りを果たした中学生棋士(当時)、藤井聡太さんの登場以来、大人はもちろん、子どもたちの間でも将棋人気は高まる一方のようです。

「はじまり伝説」

将棋の誕生については、次のような言い伝えがあります。

「昔々、戦争好きの王さまがおり、明けても暮れても続く戦いに国民は疲れ果て、途方に暮れていました。そこで、それを見かねた偉いお坊さまが、戦争を模して盤上で対戦する遊戯(将棋)を考案して献上したところ、王さまはとても気に入り、以来、ほんとうの戦争をやめて、毎日その遊戯を楽しむようになったという事です」

平和を希求する仏教の教えにもつながるこの伝説は、インドをはじめ日本にも伝わっているそうです。

元祖・将棋「チャトランガ」

伝説はさて置き、盤をはさんで駒を動かす、勝ち負けを争うゲームは、古代エジプトの壁画にも描かれているように、古くからさまざまな国で考え出

されてきました。

なかでも、古代インド発祥の「チャトランガ」(4人制将棋)は、西洋のチェスをはじめ、中国の象棋(シヤンチー)や朝鮮の将棋(シヤンギ)などアジア諸国の将棋のルーツだとされ、日本の将棋も、このチャトランガが原型になっているといわれています。

因みに、サンスクリット語で4つの要素を意味する「チャトランガ」は、古代インドの軍制が①象軍②騎兵隊③戦車隊④歩兵隊から成り立っていたことになぞらえ、象や馬の形を模した駒を、サイコロを振って動かす盤上ゲームです。

信長も好んだ将棋

日本最古の将棋遊戯の図といわれるのが、平安から鎌倉時代にかけて描かれた『鳥獣戯画』(京都・高山寺蔵)の人物戯画に見られる、僧侶と子どもがにこやかに将棋を指す光景で、この頃には、将棋もかなり知られる遊戯になっていたと考えられます。



しかしその後、囲碁と共に将棋の普及にとりわけ貢献したのは織田信長でした。信長は、この盤上ゲームを有効な陣法(戦のときに陣を布く方法)を考える手段と捉え、配下の武将たちにも奨励したといえます。真偽のほどは別として、「本能寺の変」の前夜も、遅くまで部下の盤上ゲームを観戦していたとも伝えられます。

そして江戸時代、徳川家康の保護のもと、将棋はより広く普及するようになります。とくに、参勤交代で国元に戻る各大名が将棋のルールを持ち帰ったことから、日本全国に将棋が定着するようになったといわれています。

将棋にまつわる格言

「歩のない将棋は負け将棋」↓歩は一番価値のない駒だと考えられがちだが、勝敗には欠かせない働きをする「碁に負けたら将棋で勝て」↓うまくいかないことがあってもよくよませず、他のことでの分を取り戻せばよい

クイズ

次の小説家の中で、日に数回は盤に向かわなければ気がすまなかったというほどの将棋好きは誰でしょうか。

- | | |
|--------|--|
| ①川端康成 | |
| ②芥川龍之介 | |
| ③菊池寛 | |

(正解は4面欄外に掲載)

「ホトトギス」



鳥の名前ではもちろん知っているけれども、「ホトトギス」という植物は知らないという方も、濃い紅紫色の斑点をもつ個性的なその姿を見れば、忘れられない花になるかもしれません。

1709年に刊行された貝原益軒著『大和本草(やまとほんぞう)』(※薬用植物に加え、動物や鉱物、農産物などについて広く解説された学術書)にも、「ホトトギス」についての次のような記述があります。

〔ホト、キス(ホトトギス)花は秋開く、萼ごと小紫点多し。杜鵑の羽の紋に似たり、絞り染めの如し〕
 絞り染めの如し、というたとえは、まさしく言い得て妙ですが、この説明文には少し誤りがあります。この花の斑点が似ているのは、杜鵑の羽の紋ではなく胸の紋。いずれにしても、鳥の「ホトトギス」に似たところがあることから、この名前がつけられたともいわれます。

また、次の花言葉は、夏から秋の終わりまで咲くという「ホトトギス」の、強い生命力を物語っているかのようです。
 *花言葉……「永遠の若さ」など。

退治

「退治」といえば、鬼ヶ島まで鬼退治に行く桃太郎のお話を思い浮かべてしまう方も多いのではないのでしょうか。一般に「退治」は、「害虫を退治する」というように、悪いものや害になるものを討ち滅ぼすという意味で使われます。しかし、この「退治」は当て字だともいわれ、本来仏教では「対治」と表記し、その意味するところも一般とは異なります。

仏教で用いられる「対治」は、人びとを仏道に専心させるために、その障害となる煩惱を退けて断ち切ることをいいます。そのことから転じて、俗世間では、よからぬものを成敗するという意で使われるようになったと思われまます。

因みに、仏道において「対治」されるべき主たる煩惱には、「貪欲(とんよく)」「瞋恚(しんい／しんに)」「怒り・憎しみ・恨みなどの憎悪の感情の意)」「愚癡(ぐち)」「(道理をわきまえず愚かなこと)の意」などがあります。



合掌の由来



両手のひらを顔や胸の前で合わせ、て拝む「合掌」は、仏教誕生の地・インドの礼法で、仏教伝来とともに日本に伝えられました。

合掌する際の右手は仏さまを、左手は、私たち人間をはじめとするすべての生きものを表しているといわれます。そして、その両手を合わせて礼拝する「合掌」は、生きとし生けるものが仏さまと一体となるという、信仰の御心を表現したものとされています。

お仏壇の前で、あるいは墓前で手を合わせてお祈りをする、何か心が和らいで、仏さまやご先祖さまに守られているという安らかな気持ちになるものです。また、日常においても、寄せられた好意に対し、「ありがとうございます」という心からの気持ちを込めて、思わず手を合わせることがあります。ただただ有難いという感謝の思いが、「合掌」という所作を無意識に引き出すのかもしれない。

このように私たちにとって「合掌」は、仏さまとの心の橋渡しをしてくれる、最も身近な礼法といえるのではないのでしょうか。